

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年7月31日（木）

2 確認箇所

- ・地下水バイパス揚水井No.5（E）～No.10（K）（図1）
- ・ブルータンクエリアB（図1）

3 確認項目

- （1）地下水バイパス揚水井No.5（E）～No.10（K）の状況
- （2）横置き型ブルータンクの保管状況

4 確認結果の概要

7月30日にロシアのカムチャツカ半島付近で発生した巨大地震に伴い、福島県沿岸部に津波警報・注意報が発表された。この影響により、昨日に引き続き発電所敷地の海側の一部エリアで立入が制限されていたため、それ以外のエリアにおいて安全に留意しつつ現地確認を実施した。

（1）地下水バイパス揚水井の状況

東京電力は、原子炉建屋などへの地下水の流入によって増加する汚染水の発生量を低減するため、「地下水バイパス」を設置している。

地下水バイパスは、原子炉建屋の山側（西側）から流入する地下水を建屋に到達する前にくみ上げ、専用タンクに一時貯留した後、放射性物質の濃度が基準値未満であることを確認したうえで、海へ排水する設備である。

この地下水のくみ上げに使用される井戸は「地下水バイパス揚水井」と呼ばれ、全12箇所に設置されている。

今回は、これらのうち、地下水バイパス揚水井No.5（E）～No.10（K）までの状況を確認した。（前回確認（揚水井No.8（H））：令和6年10月9日、（揚水井No.10（K））：令和5年3月17日）

- ・地下水バイパス揚水井の周囲には、ポンプ制御盤や移送配管等が設置されていた。確認した範囲において、配管及び弁からの水漏れは認められなかった。（写真1）
- ・各揚水井からくみ上げた地下水を一時貯留するための専用タンクが、地下水バイパス揚水井No.9（J）の南側に設置されていた。確認した範囲において、タンク、配管及び弁からの水漏れ等の異常は認められなかった。（写真2）

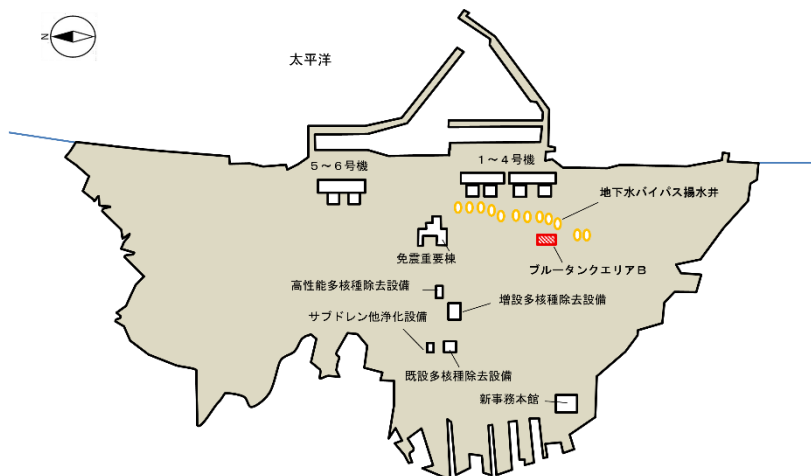
(2) 横置き型ブルータンクの保管状況

横置きタンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後に建屋滞留水を処理した水の貯蔵に使用していたが、貯蔵容量が少ないため、容量の大きいタンクへ水を移し替えた後、水抜きを実施し、計367基を敷地内4か所に仮置きしている。

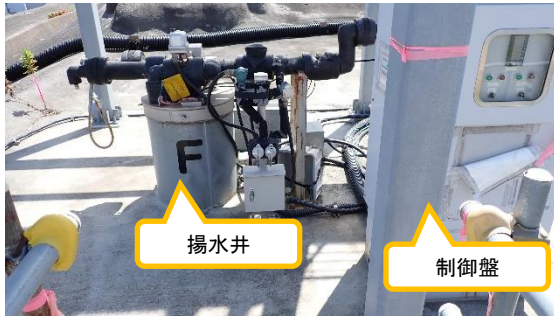
今回は、1～4号機周辺防護区域内にあるブルータンクエリアBの現況を確認した。（前回確認：ブルータンクエリアB 令和6年7月2日）

なお、ブルータンクは令和6年11月から解体試験に着手したが、令和7年2月に解体試験中の火災により作業を停止している。この影響で、解体完了時期は当初計画である令和8年度中から遅れる見込みであり、それまで現状の保管が継続される予定である。

- ・ブルータンクは2段積みで保管されており、ボルト及びラッシングベルト（固縛帯）により固定されていた。確認した範囲では、いずれにも緩み等は認められなかった。（写真3）
- ・ブルータンク下部の線量を測定した結果、 $30\ \mu\text{Sv/h}$ であったことから、タンクによってはスラッジが残留している可能性が示唆された。
- ・一部のブルータンクにおいて、表面の腐食が認められたが、損傷等は見られなかった。また、確認した範囲でタンク内容物の漏えい等の異常は確認されなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1)
揚水井No.6 (F) の設置状況①



(写真 1－2)
揚水井No.6 (F) の設置状況②



(写真 2)
一時貯留タンクの設置状況



(写真 3)
ブルータンクの仮置き状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。